

書人・立石光司の仕事

墨魂

創作から臨書へ

2022.
3/19(土) - 5/8(日)

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日 (3月21日、4月4日は開館)、4月21日(木)・22日(金)
入館料 一般 400円 (団体20名以上300円) 小中高生 100円
主催 古河歴史博物館
協力 茨城県独立書人団
後援 (公財)独立書人団、(一財)毎日書道会、日本書道専門学校
毎日新聞社、茨城新聞社、下野新聞社

〒306-0033
茨城県古河市中央町3-10-56
TEL 0280-22-5211

古河歴史博物館

撮影/猪瀬陽子



吉祥 1987年 第35回独立書展



安心 1969年 改組第1回日展



衣無世外埃 1953年 第1回独立書展

立石光司 (たていし みつじ)

1927年、古河生まれ。大久保翠洞に師事し、16歳のときに興亜書道連盟展において青少年の部・内閣総理大臣賞を受賞する。この作品が手島右衛門の眼にとまり、のちに右卿のもとに師事することとなり、右卿直門の研究グループ下抱会（後の抱土社）に身を置き研鑽、25歳のときに独立書道会（現在の独立書人団の前身）の創立会員として名を連ねた。映像の分野にも強い関心をいただき、45歳のときに東洋文化映画研究会を設立し、右卿の記録映画をはじめとして書道文化を中心とした映画制作に携わった。指導者としては、日本書道専門学校教授、東京藝術大学美術学部講師をつとめ、毎日書道会の評議員や独立書人団の事務局長・副理事長を歴任、書の海外交流にも注力し、欧米・中国を歴遊、国際書道連盟顧問もつとめた。地元古河市においては、生井子華に篆刻を学び、篆刻美術館設立の提言・開館に携わった。2002年歿。



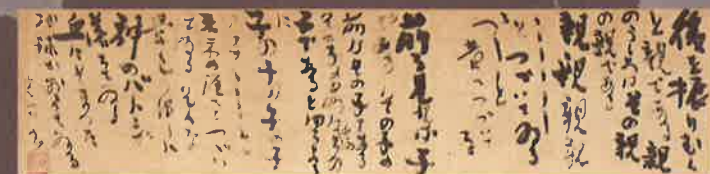
臨・伊都内親王願文 1993年 第45回毎日書道展

「私は臨書を『行』として手習いをしていくことが書の道であると思っている。世にいう作品づくりについては甚だ懶惰な私だが、それでも何とか人並みにお付き合いしてこられたのは、臨書のおかげだと思っている。私は作品は作るものと思っていない。従ってあらかじめ形式とが構成など考えることはしない。個性を出そうとすれば個性を出そうとする意志があらわになって、その人らしさが影をひそめてしまうと考えている。無心で書くことによって自分らしさが出るものである。奥行き深い伝統をもった書の世界では、新しいものなど力んでみればみるほど格調が下がる。大きな大四次元の世界から見れば、個人の性など大天才であろうと、たかが知れたものである。むしろ宇宙とけこみ個をむなしくした人が天才であろうと思う。私にとっては、歴史に残された偉大な天才たちの書いてきた道を、ひたすらコツコツと歩む臨書の道しかたどる道はないと思っている。」
 (『毎日書道講座2 行書 草書』/毎日新聞社/1988年)



臨・李嶠詩 1994年 第42回独立書展

記念講演会
 茨城県独立書人団主催により、記念講演会を開催の予定です。詳細が決まりましたら、当館ホームページで適宜お知らせいたします。



山之口嶺の詩「衰のある景色」 1955年 第1回古河市民文化祭

新型コロナウイルス感染症の影響により、会期を変更することがあります。

墨魂 一書人・立石光司の仕事— 創作から臨書へ 令和4年3月19日(土)~5月8日(日)

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
 休館日 月曜日(3月21日、4月4日は開館)、4月21日(木)・22日(金)
 入館料 一般 400円(団体20名以上300円) 小中高生 100円
 主催 古河歴史博物館 / 協力 茨城県独立書人団
 後援 (公財)独立書人団、(一財)毎日書道会、日本書道専門学校 毎日新聞社、茨城新聞社、下野新聞社



古河歴史博物館

〒306-0033 茨城県古河市中央町3-10-56 / TEL 0280-22-5211

交通
 JR宇都宮線 古河駅 徒歩15分
 東武日光線 新古河駅 徒歩20分

